研究機関名：東北大学

受付番号：	2014-1-194
研究課題名	Predictors of Pacemaker Implantation After Cox Maze IV Procedure for Atrial Fibrillation（MazeIV 手術後のペースメーカー植え込みの危険因子解析）
研究期間	西暦 2014 年 07 月（倫理委員会承認後）～2016 年 06 月

対象材料

☐病理材料（対象臓器名　　　　　　　　　　　　　　　）
☐生検材料（対象臓器名　　　　　　　　　　　　　　　）
☐血液材料　☐遊離細胞　☑その他（　　診療録　　　）

上記材料の採取期間　　西暦 2002 年 01 月～2014 年 6 月

意義、目的

心房細動は人口の約 1%が罹患するといわれ、もっとも頻度の高い不整脈であり、血栓塞栓症にともなう脳梗塞やその他臓器塞栓、また心房-心室の収縮同期不全に伴う心機能の低下などをきたす疾患である。高齢化に伴い、その罹患数も上昇傾向にある。近年この不整脈に対する外科治療としてメイズ手術が広く施行されており、術後に洞調律を維持することで遠隔期の脳梗塞の予防や心機能の維持に寄与するなどその有用性が示されている。一方で本術式の合併症として永久ペースメーカー植え込み術が知られており、術後ペースメーカー植え込みが必要になる症例を認める。今回、メイズ手術後の成績を後方視的に調査することで、合併症であるペースメーカーの頻度や、術後ペースメーカーが必要となるリスクを検討し、今後のメイズ手術の適応、意義を検討する。

方法

2002 年 1 月より 2013 年 12 月までに当科で施行したメイズ手術症例において 2014 年 6 月までの診療記録を参照し、術前の心臓超音波検査、心電図、レントゲン検査、また術後の合併症の有無、遠隔期の心臓超音波検査結果、生死の有無等の情報を収集し、解析を行う。

問い合わせ・苦情等の窓口

東北大学心臓血管外科医局
正木　直樹、齋木　佳克
宮城県仙台市青葉区星陵町 1-1
022-717-7222